

親子の絆がつかんだ世界チャンピオン

久保、世界新王者に

ボクシング

9日

世界ボクシング協会(WBA)スーパーバンタム級タイトルマッチ12回戦が、エディオンアリーナ大阪であり、久保隼(27)と真正が王者のネオマル・セルメニョ(37)とベズエラを11回TKOで下し、新王者に輝いた。久保はこれが世界初挑戦で、通算成績は12戦12勝(9KO)。セルメニョは3度目の防衛に失敗した。

アマチュア転向を目指して日本ボクシングコミッション(JBC)に引退届を出した世界ボクシング機構(WBO)ミニマム級王者の高山勝成を除くと、日本ジム所属の現役男子世界王者は9人。

粘って打ち合い 感謝の頂

11回開始のゴング。劣勢が分かっていた久保は、勢い込んで立ち上がった。しかし、セルメニョは座ってグローブを外している。次の瞬間、王者の棄権と新王者の誕生が告げられた。久保が「まだまだ。勝っただけ」と言うように、苦しい世界初挑戦だった。前歯を折られ、10回終了時の採点は1-2だった。7回には左、右と食らってプロ初ダウン。だが久保は冷静で、ジムの先輩で昨年引退した長谷川穂積さんの助言を思い出し、実行。「ダウンしたらすぐ立たんとカウント8まで休め、って」。その後も粘って腹に打ち込み、10歳年上の王者にダメージを与え続けた。

ずっと怖かった打ち合いに挑んだからこそその勝利だ。それだけ、この一戦にかける思いが強かった。新王者はリング上から両親に言った。「育ててくれてありがとう」。世界王者になって言うと、決めていた。元アマチュアボクサーの父憲次郎さん(51)は中学2年で競技を始めた久保を指導しては日誌をつけた。久保が将来に悩み、東洋大3年でボクシング部を辞めると、父は激怒。頑固者同士、話さなくなった。それでも父は息子の試合は欠かさず観戦、日誌には感想から座席の番号まで記していた。父は言う。「一度辞めたら、世界チャンピオンなかなれません。単の努力が覆したんやと思います。息子ながら尊敬します」

(篠原大輔)



3回、ネオマル・セルメニョ(左)を左ボディで攻める久保隼(右)加藤諒撮影

▼東洋太平洋ライト級タイトルマッチ12回戦(エディオンアリーナ大阪)
中谷正義(井筒) 判定 ゲイ
オファー・トーファアムート(タイ)

WBASuperバンタム級タイトル戦12回戦
久保隼 TKO
真正 11回5秒
セルメニョ(ベズエラ) 55・2
ネオマルセルメニョ(ベズエラ) 55・1

(中谷は7度目の防衛)
▼日本ミニマム級王座決定戦10回戦(同)
小西裕弥(真正) 判定 谷口
将隆(ワタナベ)
(小西は新王者)

くぼしゅん 1990年4月8日生まれ、京都市出身。京都高(現京都大学館高)から東洋大へ進むも、3年でボクシング部を辞めた。大学卒業後の2013年5月に真正ジムからプロデビュー。15年12月に東洋太平洋スーパーバンタム級王座を獲得し、2度防衛。身長176センチの左ボクサーファイター。12戦12勝(9KO)。